

Ⅲ 6. 容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績

(1) 平成26年度容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績

容器包装廃棄物の減量化やリサイクルを推進するため、平成7年6月に成立した「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」(容器包装リサイクル法)が成立し、市町村等では「市町村分別収集計画」を策定し、平成9年度から計画的な分別収集が行われている。県では、これら市町村等の分別収集計画を取りまとめた「千葉県分別収集促進計画」を策定し、容器包装廃棄物の分別収集状況等を把握している。

平成26年度における実施状況を見ると、前年度と比較して全品目について、概ね横ばいで推移している。

プラスチック製容器包装については、33市町村の実施、また、紙製容器包装については、15市町村の実施にとどまり、この2品目の分別収集があまり進んでいない状況にある。

平成26年度容器包装リサイクル法に基づく分別収集実績※

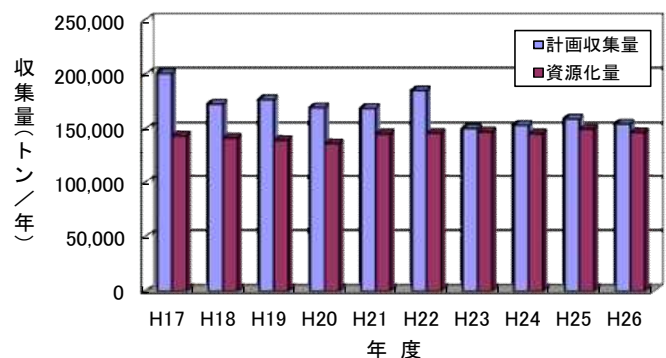
品目		計画量 (t) (A)	収集量 (t) (B)	収集率 (%) (B/A)	再商品化 量 (t) (C)	再商品化 率 (%) (C/B)	計画 市町村数	実施 市町村数	
								(合併後の数)	
ガラスびん	無色	17,575	16,503	93.9	16,498	100.0	53	53	
	茶色	12,218	11,924	97.6	11,918	100.0	53	53	
	その他	10,352	11,250	108.7	11,201	99.6	54	54	
ペットボトル		17,106	15,989	93.5	15,766	98.6	54	54	
紙製容器包装		2,498	685	27.4	524	76.5	20	15	
プラスチック製容器包装 (白色トレイ含む)		29,587	27,869	94.2	26,697	95.8	35	33	
缶	鋼製	11,960	10,271	85.9	10,261	99.9	54	54	
	アルミニウム製	9,503	9,257	97.4	9,257	100.0	54	54	
飲料用紙製容器		844	512	60.7	512	100.0	50	44	
段ボール		43,306	42,966	99.2	42,966	100.0	54	54	
全品目		154,949	147,227	95.0	145,601	98.9			

※ 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

(2) 計画収集量及び再商品化量の経年変化

容器包装リサイクル法の分別収集対象品目は、平成9年度に分別収集が開始された時点では、無色ガラスびん、茶色ガラスびん、その他のガラスびん、ペットボトル、鋼製容器包装、アルミニウム製容器包装、飲料用紙製容器包装の7品目であったが、平成12年度からは紙製容器包装、プラスチック製容器包装、段ボールの3品目が追加され、現在に至っている。

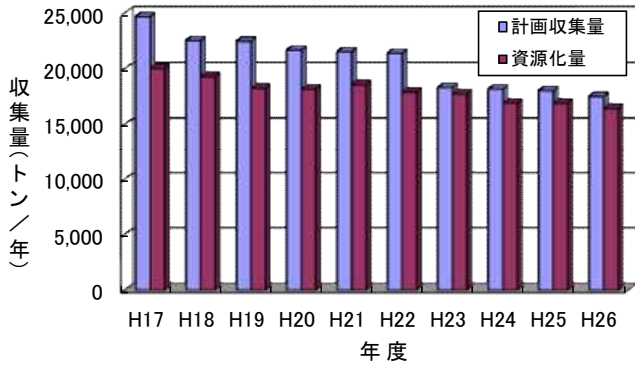
容器包装の資源化量



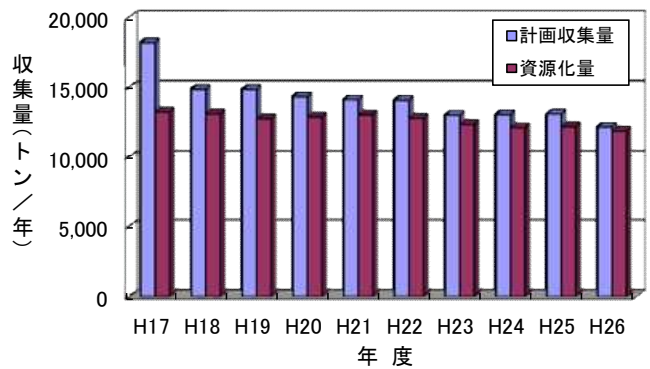
この品目追加により、再商品化された容器包装廃棄物総量は、平成9年度の約9万トンから平成12年度に12万トン、平成26年度には約15万トンと増加した。

また、品目別の再商品化（資源化）量状況をみると、飲料用として広く利用されていた鋼製容器（スチール缶）が減少する一方、小容量のペットボトルの普及等により、ペットボトルの再商品化量が増加しているのが特徴的である。

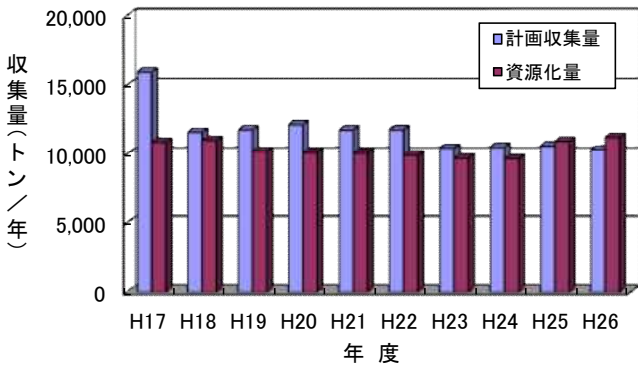
(1)無色ガラスびん



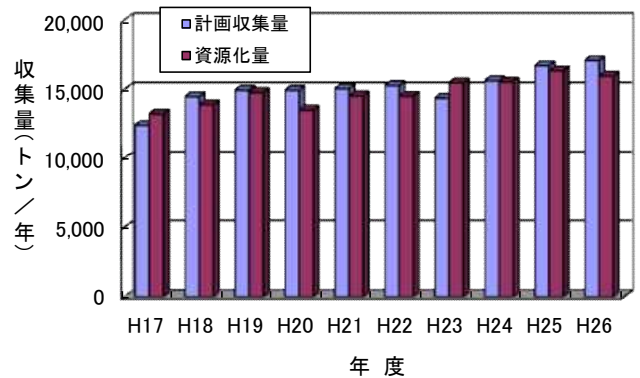
(2)茶色ガラスびん



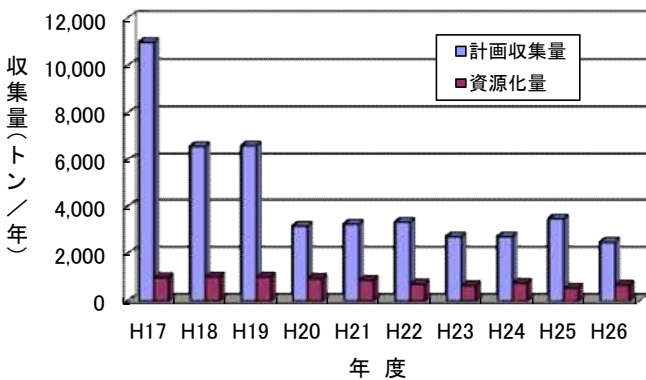
(3)その他のガラスびん



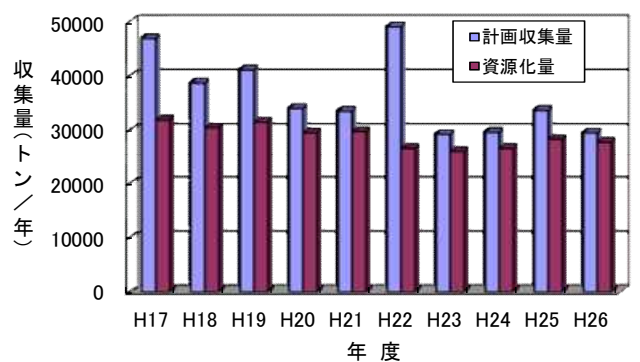
(4)ペットボトル



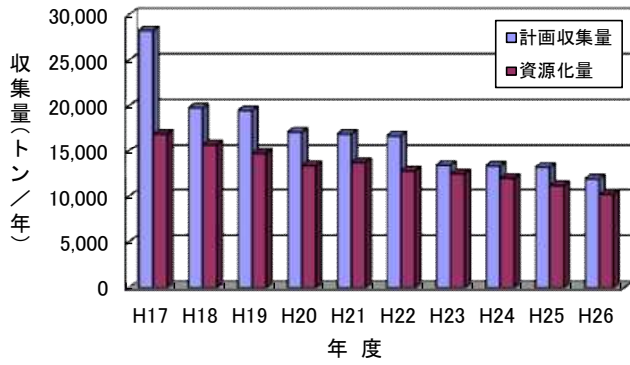
(5)紙製容器包装



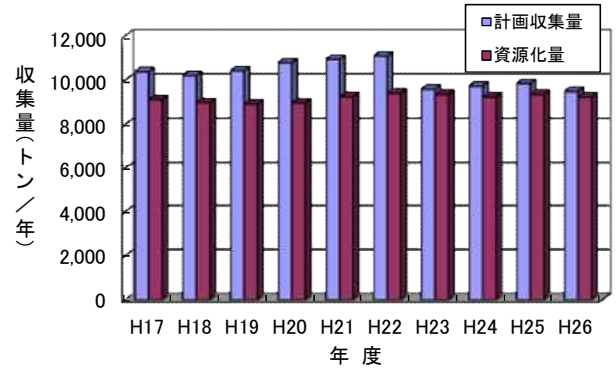
(6)プラスチック製容器包装



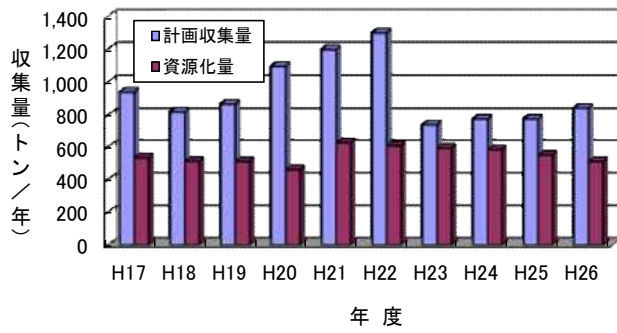
(7) 鋼製容器包装



(8) アルミニウム製容器包装



(9) 飲料用紙製容器包装



(10) 段ボール

